

# 遊学舎武雄こども園 園だより

2023年（令和5年）度 7月号

## 「172のころ」

入園・進級して3か月が過ぎ園生活にもずいぶん慣れて、何事にも全力で一生懸命な姿がとても可愛い1歳児さんです。

天気のよい日には、テラスや中庭で居心地の良い場所を自分たちで見つけて、好きなあそびを楽しんでいます。

外あそびの時など渡り廊下を通る3歳以上児のおにいさん、おねえさんたちが、いつも立ち寄ってくれます。

4月の頃は、「おーい！！」とあいさつ程度の交流でしたが、日を重ねるごとに「可愛いね」「お名前なに？」「なんか大きくなったね」など、優しく接してくれるおにいさん、おねえさんたち。

最初のころはちょっぴり警戒していた子どもたちの姿も見られましたが、今では自然と笑顔が・・・

まるで憧れを見るかのようにキラキラとした目でおにいさん、おねえさんたちを見つめているのです。改めて異年齢交流や集団生活の良さを感じ、素敵だなと嬉しく思います。

これからも互いを思いやる気持ちへの育みや、安心する居場所となるように見守っていきたいです。



自分のやりたいことと相手の状況。どちらにも思いを寄せ、次の提案をしたMくん。むしろ「走ったらいけない」として保育者の方に、よびを傾けてくれたように感じます。「なんで?」と尋ねると、「じゃあいい」とイセを探すこともできたのにそうせず、「違う方法でいいから一糸者に」を伝えてくれたMくんの心には、これまでにいろいろな人からもらった優しさ、温かさ、愛がたくさん蓄えられているのでしょう。次の日、顔を合わせるとすぐに「先生、病院行った? 大丈夫?」と声を掛けてくれたMくんなのでした。

先日サイエンスデーとフィールドワークで園にご協力頂いている伊藤はかせから、「ホタル石」なるものを見せて頂きました。一見、黒に近い濃紺の少し無骨な感じの石。なぜ「ホタル石」なんだろう、と見ていたら、はかせが静かに携帯電話の光を下から石に当てられました。その瞬間、ただの石が、真夏の海の蒼を思い起こすような、目を見張るほどのエメラルドグリーンの宝石へと一気に変化したのです。

私には、このホタル石が子どもたちの姿と重なりました。もしも光と出会わずにいたなら、他と識別することもままならない、石のまま。しかし、出会うべき光と出会ったなら、その瞬間から今まで見たこともないような、世界のどこにもない眩い輝きを放つ。

宝石の輝きに必要要素の一つに「屈折率」があり、屈折率が高い石ほど、周囲から光が射しこむと他の石よりも大きく輝くそうです。屈折とは、波や波動が進行方向を変えること。子どもたちは将来、自分の生き方を変えるほどの出来事に出会うかもしれません。

しかしその時こそ、ちょうどホタル石が変化した時の、あの光の力が試される時。

私たちは、お子様にとって、どれだけの光になれるでしょう。一人ひとり、そのままの姿で輝いているお子様の日々にそっと寄り添いながら、出会うべき光となり、自分だけの強さを見つけていくお手伝いができるなら、こんなに幸せなことはありません。

